

2020年度（2021年3月期） 第1四半期 決算補足説明資料

2020年8月12日

阪急阪神ホールディングス株式会社

9042 <https://www.hankyu-hanshin.co.jp/>

連結損益比較表 (サマリー)

	2020年度1Q末	2019年度末	比較増減
連結子会社	97社	93社	+4社
持分法適用関連会社	11社	11社	-
合計	108社	104社	+4社

増加：4社

(単位：百万円)

	2020年度 1Q累計	2019年度 1Q累計	比較増減	増減率	主な増減要因
営業収益	111,286	187,161	△75,875	△40.5%	
営業利益	△13,209	30,888	△44,098	—	次ページ参照
営業外収益	1,128	4,043	△2,915		持分法による投資利益 △2,837
営業外費用	3,298	2,744	+554		持分法による投資損失 +560
経常利益	△15,379	32,188	△47,567	—	
特別利益	258	460	△201		
特別損失	10,389	446	+9,943		新型コロナウイルス関連損失 +10,094
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△18,900	21,395	△40,296	—	税金費用 △17,279
(参考)					
減価償却費	12,700	13,474	△773		
金融収支 (A) - (B)	△1,704	△1,532	△171		
受取利息及び配当金 (A)	552	819	△266		
支払利息 (B)	2,256	2,352	△95		

新型コロナウイルスの影響
△875億円

△465億円

2020年4月22日に日本公認会計士協会より公表された通達「新型コロナウイルス感染症に関連する監査上の留意事項（その4）」に基づき、政府や地方自治体による要請や声明等により、営業を停止又はイベントの開催を中止した際に、当該営業停止期間中に発生した固定費や、当該イベントの開催準備及び中止のために直接要した費用等は特別損失に計上しています。

セグメント別営業成績（サマリー）

【当期業績のポイント】

都市交通事業をはじめ、エンタテインメント事業、旅行事業、ホテル事業、不動産事業など、多くの事業で新型コロナウイルスの影響（次ページ参照）を大きく受けたため、大幅に減収・減益

（単位：百万円）

	都市交通	不動産	エンタテインメント	情報・通信	旅行	国際輸送	ホテル	その他	調整額	連結
営業収益	新型コロナウイルスの影響 △247億円	△110億円	△201億円		△129億円		△149億円			△875億円
2020年度1Q累計	31,529	42,303	3,530	12,459	125	18,814	2,142	9,004	△8,623	111,286
2019年度1Q累計	60,125	48,708	23,005	11,232	11,004	19,135	16,233	6,680	△8,963	187,161
比較増減	△28,595	△6,404	△19,474	+1,226	△10,879	△321	△14,090	+2,324	+339	△75,875
営業利益	△196億円	△34億円	△107億円		△74億円		△50億円			△465億円
2020年度1Q累計	△7,187	7,865	△2,602	810	△4,903	12	△5,196	△211	△1,796	△13,209
2019年度1Q累計	12,862	8,106	7,918	480	2,091	△216	291	159	△805	30,888
比較増減	△20,050	△241	△10,520	+330	△6,994	+228	△5,488	△371	△990	△44,098

各事業における新型コロナウイルスの影響について

■ 各事業における新型コロナウイルスの損益影響額

	連結 合計	[主な内容]					(単位：億円)
		都市交通	不動産	エンタテインメント	旅行	ホテル	
営業収益	△ 875	△ 247	△ 110	△ 201	△ 129	△ 149	
営業利益	△ 465	△ 196	△ 34	△ 107	△ 74	△ 50	
経常利益	△ 466	△ 196	△ 34	△ 107	△ 74	△ 51	
特別利益	0	0	-	0	0	-	
特別損失 ※	101	6	22	31	22	26	
税金等調整前四半期純利益	△ 567	△ 202	△ 56	△ 138	△ 95	△ 77	

※ 2020年4月22日に日本公認会計士協会より公表された通達「新型コロナウイルス感染症に関連する監査上の留意事項（その4）」に基づき、政府や地方自治体による要請や声明等により、営業を停止又はイベントの開催を中止した際に、当該営業停止期間中に発生した固定費や、当該イベントの開催準備及び中止のために直接要した費用等は特別損失に計上しています。

■ 各事業における主な内容

都市交通	緊急事態宣言の発令等に伴う外出自粛、インバウンド需要の減少等による減収
不動産	賃貸施設の休館や営業時間の短縮、国内マンション事業の販売活動休止等に伴う賃貸・分譲事業の減収
エンタテインメント	プロ野球の開幕延期、宝塚歌劇の公演中止等による減収
旅行	海外・国内ツアーの催行中止等による減収
ホテル	インバウンド需要の減少や、旅行・出張・宴会の取りやめによる国内需要の減少等による減収

都市交通セグメント

新型コロナウイルスの影響

営業収益 △247億円

営業利益 △196億円

鉄道事業・自動車事業とも新型コロナウイルスの影響を受け、旅客数が大きく減少したことや、前年8月にコンビニエンスストア事業及び駅売店事業を外部化した影響等により、大幅に減収・減益

	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	31,529	60,125	△28,595	△47.6%
営業利益	△7,187 ※ (△7,787)	12,862 ※ (△20,649)	△20,050 (一)	— (一)

※ 営業利益の（ ）内は、特別損益に計上した助成金（新型コロナウイルスの影響によるもの）及び新型コロナウイルス関連損失を戻し入れた数値を表示しています。

不動産セグメント

新型コロナウイルスの影響

営業収益 △110億円

営業利益 △34億円

新型コロナウイルスの影響を受け、梅田地区をはじめとした多くの商業施設で休館や営業時間の短縮を実施したこと等により、減収・減益

	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	42,303	48,708	△6,404	△13.1%
営業利益	7,865 ※ (5,622)	8,106 ※ (△2,484)	△241 (△30.6%)	△3.0% (△30.6%)

※ 営業利益の（ ）内は、特別損益に計上した助成金（新型コロナウイルスの影響によるもの）及び新型コロナウイルス関連損失を戻し入れた数値を表示しています。

《都市交通》 鉄道運輸成績

《阪急電鉄》

	収入				人員			
	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	増減率	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	7,108	16,339	△9,231	△56.5	36,667	81,989	△45,322	△55.3
定期	6,776	8,648	△1,871	△21.6	64,717	89,126	△24,408	△27.4
うち通勤	6,417	7,354	△937	△12.7	54,713	60,417	△5,703	△9.4
うち通学	359	1,294	△934	△72.2	10,004	28,708	△18,704	△65.2
合計	13,885	24,988	△11,103	△44.4	101,385	171,116	△69,731	△40.8

新型コロナウイルスの影響 △112億円

《阪神電気鉄道》

	収入				人員			
	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	増減率	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	2,436	5,800	△3,363	△58.0	13,868	31,596	△17,727	△56.1
定期	2,531	3,095	△563	△18.2	25,416	32,247	△6,831	△21.2
うち通勤	2,428	2,755	△326	△11.8	22,784	25,112	△2,327	△9.3
うち通学	102	340	△237	△69.7	2,631	7,135	△4,503	△63.1
合計	4,968	8,895	△3,927	△44.1	39,284	63,844	△24,559	△38.5

新型コロナウイルスの影響 △40億円

- (注) 1. 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示しています。
 2. 阪急電鉄の定期外収入・人員には、P i T a P a 区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいます。
 3. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計です。

エンタテインメントセグメント

新型コロナウイルスの影響

営業収益 △201億円

営業利益 △107億円

新型コロナウイルスの影響を受け、スポーツ事業において阪神タイガースの公式戦主催試合が皆無となったことや、ステージ事業において宝塚歌劇の公演を全て中止したこと等により、大幅に減収・減益

	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	3,530	23,005	△19,474	△84.7%
営業利益	△2,602 ※ (△5,718)	7,918 ※ (△13,637)	△10,520 (一)	— (一)

※ 営業利益の（ ）内は、特別損益に計上した助成金（新型コロナウイルスの影響によるもの）及び新型コロナウイルス関連損失を戻し入れた数値を表示しています。

情報・通信セグメント

情報サービス事業において交通システム分野の大型案件が増加したこと等により、増収・増益

	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	12,459	11,232	+1,226	+10.9%
営業利益	810	480	+330	+68.8%

旅行セグメント

新型コロナウイルスの影響
営業収益 △129億円
営業利益 △74億円

新型コロナウイルスの影響を受け、期を通じて海外・国内ツアーの催行を中止したこと等により、大幅に減収・減益

	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	125	11,004	△10,879	△98.9%
営業利益	△4,903 ※(△7,052)	2,091	△6,994 ※(△9,143)	— (—)

※ 営業利益の（ ）内は、特別損益に計上した助成金（新型コロナウイルスの影響によるもの）及び新型コロナウイルス関連損失を戻し入れた数値を表示しています。

国際輸送セグメント

新型コロナウイルスの影響を受け、航空輸送の取扱が減少したこと等により減収となったものの、東アジアにおいて緊急輸送の取扱があったことや日本においてロジスティクス事業の取扱が増加したこと等により増益

	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	18,814	19,135	△321	△1.7%
営業利益	12	△216	+228	—

ホテルセグメント

新型コロナウイルスの影響

営業収益 △149億円

営業利益 △50億円

新型コロナウイルスの影響を受け、一部ホテルを一時休館したほか、宿泊部門・料飲部門ともに利用者数が大きく減少したことにより、大幅に減収・減益

	2020年度1Q累計	2019年度1Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	2,142	16,233	△14,090	△86.8%
営業利益	△5,196 ※ (△7,773)	291	△5,488 ※ (△8,065)	— (—)

※ 営業利益の（ ）内は、特別損益に計上した助成金（新型コロナウイルスの影響によるもの）及び新型コロナウイルス関連損失を戻し入れた数値を表示しています。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2020年度1Q末	2019年度末	比較増減	主な増減要因																													
資産の部	流動資産	253,991	262,984	△8,992	受取手形及び売掛金 △19,639 販売土地及び建物 +7,228																												
	固定資産	2,214,279	2,226,097	△11,817	有形・無形固定資産 △23,553 投資有価証券 +10,785																												
	資産合計	2,468,271	2,489,081	△20,810																													
負債の部	流動負債	374,383	394,634	△20,251	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2020年度1Q末</th> <th>2019年度末</th> <th>比較増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借入金</td> <td>746,337</td> <td>773,465</td> <td>△27,127</td> </tr> <tr> <td>社債</td> <td>122,000</td> <td>122,000</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>三菱・シヤル・ハ°-ハ°-</td> <td>60,000</td> <td>-</td> <td>+60,000</td> </tr> <tr> <td>リース債務</td> <td>7,950</td> <td>8,014</td> <td>△63</td> </tr> <tr> <td>連結有利子負債</td> <td>936,288</td> <td>903,480</td> <td>+32,808</td> </tr> <tr> <td>未払金</td> <td>△43,892</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		2020年度1Q末	2019年度末	比較増減	借入金	746,337	773,465	△27,127	社債	122,000	122,000	-	三菱・シヤル・ハ°-ハ°-	60,000	-	+60,000	リース債務	7,950	8,014	△63	連結有利子負債	936,288	903,480	+32,808	未払金	△43,892		
		2020年度1Q末	2019年度末	比較増減																													
	借入金	746,337	773,465	△27,127																													
社債	122,000	122,000	-																														
三菱・シヤル・ハ°-ハ°-	60,000	-	+60,000																														
リース債務	7,950	8,014	△63																														
連結有利子負債	936,288	903,480	+32,808																														
未払金	△43,892																																
固定負債	1,169,266	1,156,774	+12,491																														
負債合計	1,543,649	1,551,409	△7,759																														
純資産の部	株主資本	861,828	886,935	△25,107	親会社株主に帰属する四半期純利益 △18,900 支払配当 △6,094																												
	その他の包括利益累計額	21,628	18,711	+2,917																													
	非支配株主持分	41,164	32,025	+9,139																													
	純資産合計	924,621	937,672	△13,051																													
自己資本比率	35.8%	36.4%	△0.6P																														

2020年度（2021年3月期）業績予想・利益配分について

■2020年度（2021年3月期）の業績予想

- 当社グループは、多くの事業で新型コロナウイルスの影響を受けており、2020年度の業績については、その影響が及ぶ期間や程度等によって、大きく変動するものと考えられます
- そうした中、足元で新型コロナウイルスの感染者数が再び増加傾向にあり、また移動自粛からの回復ペースやソーシャルディスタンスの影響度合いのほか、グローバルな人の往来（インバウンドを含む）の回復見込みなど、多くの事業の先行きについて見通しが立てにくくなっております
- このような状況のもと、通期の業績予想については、現時点では新型コロナウイルスの影響を合理的に算定することが困難であることから、未定とします。今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表します

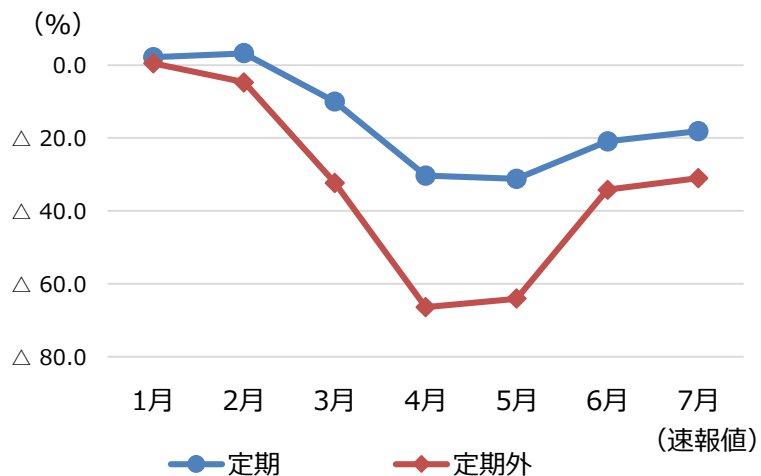
■2020年度（2021年3月期）の利益配分

- 2020年度の利益配分については、安定的な配当を維持する（※）こととし、年間配当金は前期と同水準の1株あたり50円（中間25円・期末25円）を予定しています

※ 最悪のシナリオは避けられる見込みであるため

【参考】鉄道における足元の状況

《阪急電鉄》 鉄道輸送人員 対前年比較



《阪神電気鉄道》 鉄道輸送人員 対前年比較

